



この度は「うぶやま・草うし味覚評価実験」へのご協力ありがとうございました。

01年秋に日本で初めて発生が報告された牛海綿状脳症（BSE）の問題が残した教訓は、「牛自体の健康な食生活の大切さ」でした。放牧を主体に、草をたくさん食べさせて育てることの重要性です。そして、そのように育つと、霜降りの肉とは違った旨みのある赤身の肉ができることを知りました。

04年の七夕、南阿蘇村に褐毛和牛（あか牛）の飼育者、放牧型飼育技術の研究者、獣医師、牛肉流通の専門家が集まり、「松阪牛と比肩されるほどにうまい赤身になる和牛を育てて、阿蘇の草原を守る戦略」を熱く語り合いました。

その年の12月、DaDaは南阿蘇畜産農業組合と産山村の上田尻牧野組合の両組合長に、これまでよりも放牧期間が長く与える草の量が多いあか牛を育てていただくようお願いしました。その牛を食べれば、心配されている阿蘇の草原景観の維持・保全に私たちも貢献できると考えたからです。阿蘇の草原と都市の食卓を牛でつなぐプロジェクトの始動でした。

06年の七夕、南阿蘇で育てられたジュエリー君（ジュエリー家の初代）を初めて食し、その味覚の新鮮さに感動して、草をたくさん食べて育った牛を私たちは「草うし」と呼ぶことにしました。

今回のロンちゃんは、ジュエリー君よりも草の量を10%ほど多く食べて育ちました。過去においてこのような牛を計画的に育て食卓にお届けした経験はなく、飼育に携わった人たちでさえ味覚について不安を抱えたままのデビューです。どうぞ率直な感想ご意見を「DaDaな草うし調査票」にご記入の上、同封の返信用封筒にてご返送いただければ幸いです。

なお、NPO環境圏研究所は、今回をもって阿蘇の草うしに関する「味覚評価実験」を終了いたします。前回もご協力いただいた皆さん、また、今回初めてご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

2008.09.02 環境圏研究所 代表 高木淳二

#### < DaDaな草うしのマークについて >

七夕が近づくと咲き始めるアサガオは牽牛花とも呼ばれます。DaDaは七夕～牽牛星～牽牛花～牛飼い～草うしの連想から、自家採種したアサガオの種を、草うしを育てる人や、料理する人、食する人たちに配っています。七夕の夜空に満天の星が輝くように阿蘇の草原に牛が群れ、牛飼いの村と草うしが食卓にのる町にアサガオの花が咲き誇る姿を想像しました。

#### 今回の草うしの紹介

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 南小国町で2006年3月誕生        | 5. 繁殖農家：阿蘇郡南小国町・穴井秀憲     |
| 2. 親子放牧期間：約3ヶ月           | 6. 肥育牧場：阿蘇郡産山村・池山牧場（井博明） |
| 3. 粗飼料（野草や牧草）の割合：約40～45% | 7. 肥育の特徴：牛舎併設の運動場放牧      |
| 4. 飼養期間：28ヶ月             |                          |

DaDa草うしフォーラムは“草うしのチャレンジ”を応援していきます

